

開会あいさつ

姫路市長 清 元 秀 泰



皆さまどうもありがとうございます。

今日、2024姫路市都市景観フォーラムの開催にあたり、たくさんの方に来ていただきましたことを大変うれしく思います。

姫路のすばらしさは、やはり世界遺産の姫路城を中心とした町並みであり、そしてその歴史を大切に生かしながら人が住んでいくために、様々なまちの整備や景観に非常に気を遣ったまちづくりをして、昭和62年には姫路市都市景観条例を制定しながら、皆様のご協力を得てまちづくりが進んでいるところでございます。

実は私は、昨日の朝ヨーロッパから帰って参りました。

ヨーロッパの世界遺産のある2つの都市を訪問して、まずはじめに、スロベニアの首都リュブリャナという町で、第19回世界歴史都市会議というものがありました。姫路の都市開発、持続的な過去から現在、そして未来へ繋がる都市開発の中で、駅前整備事業で生まれた空間を、人のウォーカビリティ、歩くことを楽しくするということから発展してきたまちの開発について説明を行い、あわせて第20回の記念大会を姫路へ誘致するコンペにも参加いたしました。

イランのテヘラン、そしてアゼルバイジャンのシュシャという町と最終候補地に残り、最後のプレゼンで第20回大会は、姫路市で開催することが決定いたしました。

このように世界的に有名な歴史都市でも、この姫路城を中心とした城下町の整備について、世界の方々から認められ、ぜひその姫路のまちを見てみたいという多くの方の票を得ることができたのは、これまでの姫路のまちづくりにお力添えをいただいた皆様方、そして何よりも景観条例を制定しながら、少し不自由でも、このまちの格をしっかりと守っていこうとするその姿勢のあらわれではないかなと思っております。

そしてそこから陸路を6時間車で走りまして、オーストリアのウィーンに入りまして、中心にあります、マリア・テレジアの居城シェーンブルン宮殿と姉妹城締結を結んで参りました。

姫路城も歴史的にも豊臣秀吉の出世城でもありますし、我々の誇るべきお城ですが、ヨーロッパにおけるウィーンのシェーンブルン宮殿は1814年のウィーン会議が行われたり、ケネディとフルシチョフの1961年の、冷戦停戦におけるデタントの会議が開かれたりというような、ヨーロッパ歴史の中心であり、居城の主であったマリア・テレジアは、マリー・アントワネットの母親という歴史的なお城でございまして、この姫路のお城が、シェーンブルン宮殿と提携できたのも、やはり町並みの保存があったからだと思います。

来年は大阪関西万博開催の年でもございますので、ますます姫路のまちづくりに力を入れていきたいところでございます。

そういう中で、本フォーラムは、第一部、「みんなで創ろう!世界に誇れるまちなみ景観」をテーマに、本市の都市景観の形成に寄与した建物や、まちづくり活動を表彰する第13回姫路市都市景観表彰式を執り行わせていただきます。

そして第二部におきましては、環境色彩デザインを専門とされている加藤幸枝さんをお招きして、色彩計画、色彩計画家の目から見た姫路の色やまちづくりにご提言をいただきながら、城下町だけでなく海もあり、山もあり、農村地帯もあるこの姫路の景観を皆さんとどのように形作っていけばよいかパネルディスカッションさせていただきたいと思っております。

本日、都市景観賞等を受賞されました皆様方には本当に、姫路のまちを彩る力に、なっただいてにことに心から感謝申し上げますとともに、本日のフォーラムを通じて姫路の都市景観はどうすべきか市民の皆様と考える機会になればと思います。

本日のフォーラムが実り多きものになることを祈念いたしまして、私の主催の挨拶とさせていただきます。

本日は多数お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。